

VOL. 22
2005/09/01



特集 第4回農業まつり開催

明日を担う
営農情報
トピックス
理事会だより

<http://www.ja-asahikawa.or.jp>

あさひかわ VOL.22 平成17年9月1日発行 ■編集発行あさひかわ農業協同組合 管理部総務課 ■印刷(株)エー・アイピー農文協



休日ローン相談会のご案内

住宅ローン 3年 固定[年率] 年0.98%

最高限度
5,000万円以内

最長借入期間
35年以内

保証料別途

※1 特約期間終了後は当JAの変動金利又は、固定金利を選択していただきます。(利率はその時点での利率となります。)
※2 ご融資に際し(根) 抵当権の設定・当JA指定の保証会社の保証が必要です。また当JAの事務手続きにより必要書類を提出していただきます。 ※3 ご融資の可否は当JAの査定によります。

住宅ローンの借換等ご子息・親戚知人のご紹介をお願いいたします。

9月17日(土) 9:00~15:00 北部支所、神楽支所、近文支所、東光支所、永山西支所
10月15日(土) 9:00~15:00 緑が丘支所、豊岡支所、神居支所、北野支所
11月12日(土) 9:00~15:00 末広支所、神楽岡支所、永山支所、忠和支所、春光台支所

JA旅行センターでは国内外
さまざまな旅行を取り扱っております
旅...!心のゆとり

国内旅行

- 添乗員付きの募集ツアー
- グループ旅行
- 全国の旅館・ホテルの手配
- ANA、JAL、AIRDOなど航空券の手配
- JRの手配
- JALツアー、ANAスカイホリデー、JRツインクルなど各種

海外旅行

- 添乗員付きの募集ツアー
- グループ旅行
- 海外航空券および海外ホテルなどの手配
- ジャルパック、ANAハローツアーなど各種

旅行センター(豊岡支所内)は
JAあさひかわの旅行事業部門です。

ご注文は、各基幹支所でも承っております。

お問い合わせは

☎ 31-3188 豊岡支所

特集：第4回農業まつり 01

明日を担う	03
営農情報	06
トピックス	09
理事会だより	14

表紙写真/
神居地区 雨紛の囃場

特集!!

第4回農業まつり 12,000人が集う



歌真呂さんのものまね歌謡ショー。



▲大いに賑わったJAあさひかわ産「ほしのゆめ」、「きらら397」入りもちまき。



▼子どもたちに大人気!



▲「ぴったり」当ててね、重量当て。



▲V-GOLDだ! ベンチャーズだ!



「はい、大当たり!」ニコニコの大抽選会。



▲伝統芸能である雨紛囃子。



▲そばはやっぱり江丹別。



▲早食い自慢が勢揃い!



▲品切れ続出の青果・花き直売。



旭川農業高校の▲吹奏楽が響いた。



▲威勢よく響いた永山屯田太鼓。



▲大盛況の農業まつりの会場。

ケットや縁日コーナー、ポニー馬車、JAFによる子ども免許証コーナーやピエロのパルーンアートが来場者の人気を集めた。

ステージイベントでは、郷土芸能や旭川農業高校の吹奏楽、歌真呂によるものまね歌謡ショー、青年部によるJAあさひかわ農産加工品早喰い大会や大抽選会などが次々に行われ、夏日にもかかわらず、延べ12,000人の来場者がまつりを楽しんだ。

各地で夏まつり真っ盛りの中、7月30・31日の両日、「第19回永山屯田まつり」が開催された。当JAあさひかわは山本組合長、田口専務、長勢常務、笠井理事、楠理事、小杉参事を先頭に、青年部、女性部、職員を合わせ昨年来るべく総勢200名が参加した。

まつりのメインである「あんどん流し」では、女性部、女性職員の優美な踊りを筆頭に、青年部と女性職員が叩く力強い太鼓の鼓動に合わせ威勢のよい掛け声が響き渡った。その後ろを、永山支所職員が中心となり約1ヶ月かけ製作した「大型あんどん」が活気づいた永山地域を堂々と練り歩いた。

JAあさひかわの宣伝活動を行うと共に、「あついで」のたぎった2日間であった。

山本組合長以下200名が氣勢 第19回永山屯田まつり参加



▲▼永山屯田まつりの様子



7月24日、JAあさひかわ本所駐車場において、当JA主催第4回農業まつりが開催された。今年で4回目となる農業まつりでは、消費者にJAあさひかわ産の農畜産物をより知ってもらうため、新たなイベントとして江丹別産そば粉を使用したそば打ち実演会や、「ほしのゆめ」や「きらら397」の米どん、江丹別そばのどん販売さらには「ほしのゆめ」を使用した赤飯などを販売した。

そば打ち実演会では、打ったそばがその場で食べられるということもあって、そばを楽しむに長い行列ができていた。

また、毎年好評の青果・花き販売コーナーでは、「鮮」ブランドの野菜・花きを中心に販売し、午前中に売れ切れるほどの人気ぶりであった。その他の農畜産物や農産加工品もたちまち品切れになるほどの盛況ぶりだった。さらに、女性部によるフリーマー



農業で人を癒せる農家になりたい。

旭川中央地区
波能 昭雄さん

- 1 昭和40年8月5日
- 2 父、母、叔母、猫2匹
- 3 乗馬、オートバイによる旅行、パソコン、ハーブ、その他楽しい事なら何でも。
- 4 北海道に帰って来てから片手間で、農業を手伝っていたが、今年から専業で始めた。
- 5 稲作メインで、今年はラディッシュを栽培。
- 6 取りあえず、農家1年生なので現状維持。自分に余裕が出来たら、色々な意味で、農業で人を癒せる農家になっていきたい。
- 7 他の業種の方々から、農業が一番良い業種だと、言って貰える業種になる様、微力ながら努力していきたい。
- 8 米価が少しでも上がる様、政府に希望します（笑）。また、消費者や業者の方々のクリーン農業に対する理解も深まる様、期待。
- 9 自分を心から本当に、理解してくれる人（そんな人はまず居ない）。乗馬にもオートバイにも、興味があればなお可（苦笑）。



今の経営規模を拡大し、自分に合った経営をしたい。

旭正地区
高橋 一政さん

- 1 昭和50年10月20日
- 2 父、母、姉2人、祖母、妻
- 3 映画鑑賞、ゲーム
- 4 平成8年から
- 5 水稻約15ha
- 6 今の経営規模を拡大、大体20haぐらいにしたい。あと、水田の基盤整備を行う。自分に合った経営をしたいと思う。
- 7 消費者の方々に、安全でおいしい米を食べていただくために日々、努力したい。
- 8 高齢化による休耕田などの土地の有効利用を考えてほしい。



いつまでも新人の気持ちで、何事も勉強していきたい。

永山地区
黄木 高善さん

- 1 昭和53年7月17日
- 2 父、母、祖母、姉、妹
- 3 オートバイ
- 4 平成13年4月から
- 5 水稻・大豆・春小麦
- 6 現在の経営スタイルを維持しながら、様々な面で多くの情報を取り入れて、経営に役立てたい。
- 7 いつまでも新人の気持ちで、何事も勉強していきたい。
- 8 JAあさひかわの生産物のPRをもっとするべきだと思う。
- 9 木村カエラ



水稻を基本とした複合経営が目標。

神居地区
大家 隆至さん

- 1 昭和44年12月10日
- 2 父、母
- 3 ドライブ
- 4 平成14年3月から
- 5 水稻・野菜（軟白みつばなど）の複合経営
- 6 水稻を基本とした複合経営（法人化などを視野に入れて）
- 7 水稻の作付面積が30ha近くになり労働力が不足しがちなので、その面を解消できるような経営を目指していきたい。
- 8 生産者と農協がより強固な関係になって、現在の苦しい農業情勢を乗り切れればと願っている。
- 9 陰で自分を支えてくれる人。

新たな食料・農業・農村基本計画

本年3月に、今後10年程度の施策展開の羅針盤として、新たな食料・農業・農村基本計画が策定されました。その中で、これまでの農業を取り巻く情勢の変化や施策の検証結果等を踏まえて食料自給率目標を設定するとともに、目標の達成に向けて生産及び消費の両面において重点的に取り組むべき事項を明らかにしております。また、具体的な施策の展開方向として、①担い手の明確化と支援の集中化・重点化、②経営安定対策の確立、③環境保全に対する支援の導入、④農地・農業用水などの資源の保全管理施策の構築などの新たな政策の方向性が示されたところです。

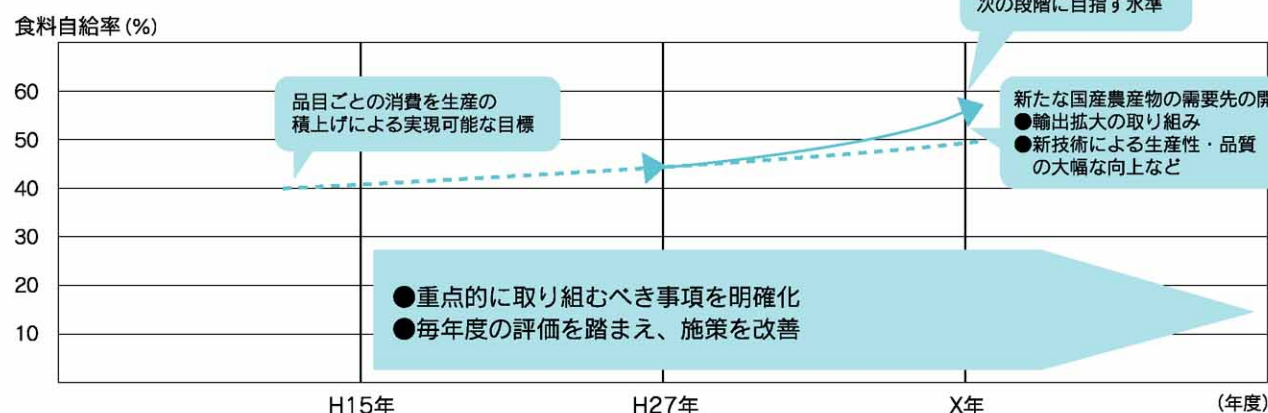
何故、農政改革が必要なのか

日本の食料自給率は低迷し、農業生産の担い手も高齢化しており、担い手の確保が重要です。その一方で、国民の農業・農村への関心は高まっており、農村地域の振興政策が必要です。

●食料自給率

農業を取り巻く課題を克服し、元気で多様な農業者が支える食料自給率について具体的な目標を定め、関係者が一体となった取り組みを推進することで、その向上を図ります。

- ▷カロリーベースの食料自給率は5割以上を目指します
- ▷その上で、平成27年度の目標を45%とします。



▷生産額ベースの食料自給率目標は76%とします。

担い手の明確化と支援の集中化・重点化

これまで地域の農業により行われてきた食料の生産や集落の維持が、農業者の減少や高齢化、農地面積の減少などが進んだために困難になってきています。このまま放っておけば、食料の安定供給や農村社会の維持・発展ができなくなります。このため、効率的かつ安定的な農業経営に関する施策を担い手に集中化・重点化していくことが重要です。

経営安定対策の確立

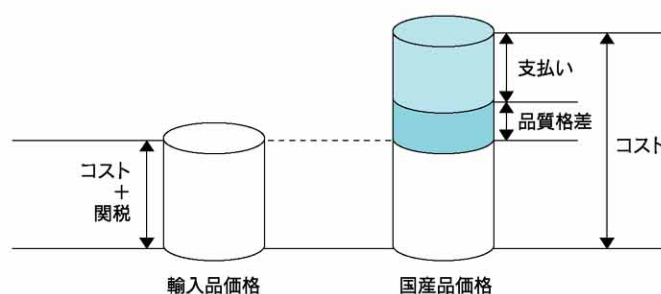
農産物貿易のグローバル化が進む中、我が国の農業の生き残りを賭けて農政を転換する必要があります。現在の水田作、畑作などの品目別になっている経営安定対策を見直し、経営全体に着目して、講じる品目の横断的政策が必要となります。

環境保全に対する支援の導入

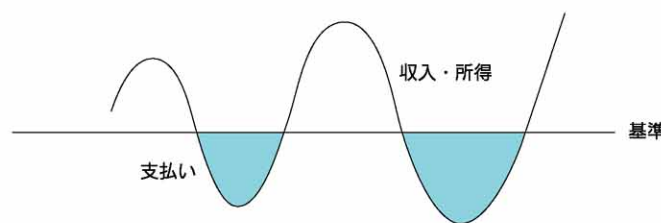
過疎化や高齢化によって集落の機能が低下し、各地で農地や農業用水の保全管理は難しくなっています。地域全体の共同の取り組みで、農業を取り巻く環境や豊かな自然を守り、維持していかなければなりません。国民共有の財産である農地・農業用水などの資源を、良好な状態で次世代に継承する施策の推進が必要です。

●経営安定対策のイメージ

1 諸外国との生産条件格差の補てん



2 収入・所得の変動を緩和するための補てん



収量・品質の安定を図り、ゆとりある農業経営を目指す。

北野地区

神田 智靖さん

- 1 昭和52年3月21日
- 2 父、母、姉
- 3 ひとり旅
- 4 平成8年から
- 5 水稻・小麦・大豆
- 6 現在の営農スタイルを維持しながら、ゆとりある農業経営を目指す。
- 7 収量・品質の安定を図り、良質米生産に努めていきたい。
- 8 消費者にJAあさひかわ産の商品をPRしてほしい。
- 9 強い人

上川管内JA野球大会、高松宮賜杯全日本野球大会制す

JAあさひかわ野球部、連続優勝果たす

7月20、21日の両日、第58回上川管内JA野球大会が美瑛町の丸山野球場と美瑛中学校グラウンドで開かれた。9JAが参加した大会において、JAあさひかわ野球部は、初戦にJA北ひびきを6対0で破り、準決勝では昨年の決勝で対戦したJAたいせつを7対0の大差で破った。決勝ではJAふらのとの投手戦の末、1対0で辛勝し、4年連続で栄光を手にした。また、7月23日は高松宮賜杯第49回全日本軟式野球大会（一部）北・北海道大会に出場。今年、1部に昇格したにもかかわらず、圧倒的な強さで優勝し、全国大会へのキップを手に入れた。

7月20、21日の両日、第58回上川管内JA野球大会が美瑛町の丸山野球場と美瑛中学校グラウンドで開かれた。9JAが参加した大会において、JAあさひかわ野球部は、初戦にJA北ひびきを6対0で破り、準決勝では昨年の決勝で対戦したJAたいせつを7対0の大差で破った。決勝ではJAふらのとの投手戦の末、1対0で辛勝し、4年連続で栄光を手にした。

高松宮賜杯全日本野球大会、上川管内JA野球大会、JAあさひかわ野球部、連続優勝果たす

7月20、21日の両日、第58回上川管内JA野球大会が美瑛町の丸山野球場と美瑛中学校グラウンドで開かれた。9JAが参加した大会において、JAあさひかわ野球部は、初戦にJA北ひびきを6対0で破り、準決勝では昨年の決勝で対戦したJAたいせつを7対0の大差で破った。決勝ではJAふらのとの投手戦の末、1対0で辛勝し、4年連続で栄光を手にした。

高松宮賜杯全日本野球大会、上川管内JA野球大会、JAあさひかわ野球部、連続優勝果たす

大人気の旭山動物園で
JAあさひかわ産農産品の
販売に力が入る。



力を呼びかけ閉会となった。
**旭山動物園で
地産産品を販売**
全国的な観光スポットとして注目を集めている旭山動物園の来場者に、旭川の特産品を知ってもらおうと、地場産ショップが試験的に開設された。
JAあさひかわでも、旭川市からの要請により7月30、31日と8月6、7日の両2日間、メロン、サクランボ、そばのほか、味噌、三升漬、そばかりんとう、醤油等の加工品を販売した。
メロンの地方発送については、すでに他の観光地で発送を済ませた人が多く、価格の安さに残念がる人もいた。発送をしたお客様のの中には、帰着後、他産地のメロンより非常に美味しいので追加発送をお願いしたいという産地としては、大変嬉しい電話もあった。
全体的には、旅行中であり小さくて軽いもので、バスの

中ですぐ食べられる物の人気が高く、サクランボ、そばかりんとうが売れ筋であった。
**消費者との交流と
地産地消の推進をねらう
クッキングフェスタ開催**
8月28日(日)、ときわ市民ホールで、「第1回JAあさひかわクッキングフェスタ」が開催された。生産者と消費者の交流をはかり、農業に対する理解度を高めてもらうことを目的に企画された新しい試みで、JAあさひかわ地域の生産圃場の視察と、その地域で生産された農畜産物を使用した料理講習会を行い、JAあさひかわ産農畜産物の情報発信と地産地消を大いにPRした。
当日は、多数の応募者の中から抽選で選ばれた41名の参加者がバスで旭正・永山地区のほうれん草とピーマンの圃場を視察、その圃場で収穫した材料に、同じ地区内のパセリ、メロン、長ねぎなどの素材を加え、料理教室で調理し



いきいきと活気にあふれた料理教室。

25年間も「ドラえもん」
になりきったという大山さん
のお話に喝采。



**ドラえもんに遭遇？
JAあさひかわ女性部 1日研修**
6月29日(水)、JAあさひかわ女性部の1日研修として、農協観光主催の「JAレディーズセミナー」に約160名で参加した。セミナーの講師はあの「ドラえもん」と大山のふ代さん。なんと25年も「ドラえもん」になりきったそうである。
小さい頃の話、学生時代の話、そして今。時々、会場を沸かせながら自身の人生を振り返っていた。あまりの熱弁に時間もオーバーしてしまっただが、「ドラえもん」も登場し、会場いっぱい拍手喝采で終了した。昼食後、今話題の「旭山動物園」へ行き、園内を自由に見学。好天にも恵まれ、全員笑顔で1日研修を終えた。
**クリーン米生産と
全量集荷を目指して
生産者総決起集会を開催**
7月8日(金)、鷹栖町のメロディーホールで、クリーン

米生産と全量集荷を目指す生産者総決起集会が開催された。地域水田農業ビジョンの達成に向け、「売れる米づくり」対策を基本に、上川ライスタミーナルの利用率向上と併せて、全生産者でクリーン米慣行22回成分を12回成分以内の生産に取り組むことを再確認した。
米政策改革で需要量が生産目標数量に反映されるようになり、「売れなければ作れない」現状を踏まえて「安全」安心をキーワードに、今年から全生産者挙げてブランド確立に取り組んでいる。
決起集会には、生産者、JAあさひかわ役職員360人が参加し、山本組合長が「米の情勢が非常に厳しい中、安全・安心なクリーン米生産で、JAあさひかわの米をブランドとして確立しよう」と挨拶。続いて、ホクレンパールのライスの藤野伸之部長が、「米穀を巡る情勢について」と題して大会記念講演を行った。この中で藤野部長は米制度の変

遷と北海道米、北海道米の市場性と今後、JAS法下の流通と安全・安心の取り組み等について生産者にわかりやすく話を進められた。
報告事項として、庄司営農販売部長より「クリーン米生産と全量集荷の取り組み」の経過が報告された。その後、上川中央地区農業改良普及センターの関根敏夫調整係長から、「水稲作柄状況について」資料にもとづいた詳細報告があった。
JAあさひかわ青年部の大西勇治副部長が「売れる米づくり対策を基本に、全生産者で差別化商品としてクリーン米に取り組み、安全・安心で消費者から信頼される米づくりを致します」など4項目のクリーン米生産と全量集荷を目指す決意表明が行われた。
最後に、稲作連絡協議会の増茂武会長より稲作連絡協議会会員の皆さんと共に、消費者や実需者から信頼される産地を作り上げて行きたい旨の挨拶があり、参加者に強く協



「消費者から信頼される米づくり」を高らかに宣言。



▲黄金水松の大きさに感動しつつ、記念撮影。

7月7日（木）、あさひかわ農協貸家協議会（松田繁会）

芦別温泉で各々の時間を楽しむ あさひかわ農協貸家協議会が日帰り研修

7月7日（木）、北部さつき年金友の会（浅田精一会長、会員数174名）は、日帰り研修会として今年で第2回目となる「パークゴルフ大会」を43名の参加者のもと、秩父別温泉「ちっぷゆう&ゆ」において実施した。前日までの悪天候で実施が心配されたが、当日は雨も上がり、肌寒い天候ながらもプレーに支障なかった。責任者（マーカー）を中心、和気あいあいと一打一打に歓声をあげながら18ホ

和気あいあい。1打1打に歓声 北部さつき年金友の会パークゴルフ大会

長、会員数213名、事務局旭川協同総業株式会社）は、23名の参加により、芦別温泉スターライトホテルで、日帰り研修旅行を開催した。途中で、日本名木100選に指定されている黄金水松を見物し、その大きさに感動し、巨木を背景に記念撮影。現地ではパークゴルフ、散策等に別れ、それぞれの時間を楽しんだ。懇親会ではゲーム等で楽しい1日を過ごした。

優勝の松本さん石持ちカレイ51cm
近文クローバー友の会恒例の釣り大会開く

7月14日（木）、近文クローバー友の会内沢善信会長、会員数71名は浜頓別町猿払沖で20名の参加により釣り大会を開いた。天候にも恵まれ、参加者平均60〜70枚の釣果があり大会も大いに盛り上がった。釣果は、次のとおり。

〈優勝〉松本敏久さん 石持ちカレイ51センチ 〈準優勝〉木谷川英也さん

▼懇親会はプレーを振り返り、おおいに盛り上がった。



▲あっという間に完売した採れたて野菜

JA女性部をはじめとした女性グループが、自分たちで丹精をこめて育てた採れたて野菜を直販する「採れたて市」などの農産物販売が各地で人気を集めている。

女性部永山支所のメンバーは、7月26日（火）、舎前では旭川出身のミュージシャン、北川由実さんと小野寺治子さんが話題の韓国ドラマ「冬のソナタ」の曲など5曲を演奏して盛り上げていた。コンサートを聞きに集まったお客を含めて沢山の人が採れたて野菜と農産加工品を買い求め、またたく間に完売となった。

コンサート客に採れたて野菜販売 女性部永山支所と農産加工品グループ

7月19日（火）、永山年金友の会主催のゲートボール大会が、永山市民交流センターゲートボール場で開かれた。一時、雨の降るあいにくの天候であったが、この大会を楽しみにしていた会員にとっては、多少の雨などまったく気にならない様子で、みんな元

気いっぱい、はつらつとプレーを楽しんだ。この日は、永山地区ゲートボール協会の協力を得て、友の会会員14名を含む8チームが、会長旗を目指して日頃の腕を競い合った。例によって珍プレー、ビッグプレーが随所に飛び出す。和気あいあいの雰囲気会場は笑いと活気で満たされた。

北海道井室町生まれのゲートボールは、シニア世代以上の身近なスポーツとしてすっかり定着したようだ。戦いすんで日が暮れて、すっかり若くなった気持ちの会員たちは、次の機会での再会を約束して散会した。

▼スタイルも決まった名？ゲートボーラー



そばの花が一斉開花 適度な降雨で順調な作柄期待

6月上旬から播種作業が行われていたそばが、一斉に開花時期を迎えた。
昨年は秋の台風18号による倒伏・落実の被害が甚大だったが、今年は播種後天候が良く、そばにとって適度な降雨もあり順調な作柄が期待されている。

JAあさひかわ地域では、神居、江丹別地区がそばの名産地として知られており、この地区における今年のそばの作付面積は500haを超えている。作付農家は約150戸となっており、年々作付面積が拡大している。
そばは非常に栄養価の高い

穀物で、タンパク質やビタミン、繊維質が豊富に含まれており、高血圧予防やダイエットにも効果的で、健康食品としても優秀である。
今後の天候にも左右されるが、9月上旬には順次収穫され、10月には新そばが販売される予定。



▲順調な作柄が期待されるそば畑

さくらんぼの出荷始まる

7月9日から共計出荷開始



▲「品質向上」に結集したさくらんぼ出荷

神居地区の神居古潭・富沢で栽培されているさくらんぼの共計出荷が、7月9日（土）より始まった。
さくらんぼは、収穫期間が短いので出荷時期ともなると農家は忙し

さくらんぼは天候に左右される作物で、開花期の気温や降雨量、タイミングなどで出来栄が異なる。
今年は、まず春先の低温による開花の遅れ、また6月の干ばつによりさくらんぼの果実が小玉果で色つきも悪く、収穫作業が困難な年であった。このような厳しい状況の中であって、旭川市青果物生産

出荷協議会神居支部果樹部会山中憲明部会長は、「こういう年こそ品質面を向上させ、市場にクレームのつかないものを送ろう」と檄を飛ばし、検査体制の強化に取り組んだ。その結果、部会の会員の方々の努力もあり、市場の評価も高く、値段も高値で推移した。

パークゴルフで疲れも忘れ 女性部北野支所が恒例の大会開催

7月13日（水）、女性部恒例の「パークゴルフ大会」が北野軽スポーツ公園内パークゴルフ場で開催された。

この日の旭川地区は最高気温28・3度の夏日であったが、プレーは夕暮れには少し早い午後5時にスタート。日中の強い日差しも少し残っていた

が、心地良いそよ風の吹く中、たし、のども潤いながらの順位発表となった。暗くなる頃まで歓談が続き、参加者にとっては、大変楽しい有意義な一日となった。

競技が終了する頃にはみんな疲れ果てており、お腹も空いてのどもカラカラ。シンギスカンとジュースでお腹を満



▲一打一打に歓声が交じる…。

秋まき小麦の刈取り終える

北野地区「全量等級入り」に願い



▲ダイナミックに麦穂を刈り込むコンバイン

北野地区の畑では、7月22日（金）から秋まき小麦（品種ホクシン）の刈取り作業が始まった。北野地区生産組織が中心となつて汎用コンバイン2台で約23ha作付けされた秋まき小麦を約1週間かけて刈

悪天候で刈取りが出来ない日があったり、機械が故障するアクシデントもあったが、連日、広い畑にコンバインのダイナミックな音が響き渡り、無事、7月30日（土）には刈取りを終えることが出来た。これらの刈取られた秋まき小麦は、JAたいせつ鷹栖ライスセンターに運ばれ、乾燥・調

整されて出荷に備えられる。今年の秋まき小麦は、6月から7月にかけての降雨不足により粒が細く、収量の減収もあったが、品質的には全量等級に入るものができる、生産者はほっと胸をなでおろしていた。

第6回理事会

平成17年6月28日(火)

協議事項

- 1 農業委員、旭川協同総業職員の選任について
- 2 役員研修の実施について
- 3 大口貸付について
- 4 平成17年度米売渡契約、稲得数量及び出荷契約金の支払について
- 5 永山駅前再開発に伴う永山支所の整備について

報告事項

- 1 平成17年5月末事業実績（子会社含む）について
- 2 地区内営農状況について
- 3 JAあさひかわ「米と地域農業を守る生産者集会」開催について
- 4 農家経営対策の取組みについて
- 5 総代名簿について
- 6 人事異動について
- 7 「JAあさひかわ クッキングフェスタ」開催について
- 8 JAバンク基本方針に基づく「経営状況に関する事項の報告」について
- 9 営農販売部門事務所の改修について
- 10 第4回JAあさひかわ農業まつりについて
- 11 有価証券の取得について
- 12 系統外預金と信託状況について
- 13 子会社旭川協同総業所有の固定資産売却について

職員人事

■異動
9/1 考査役 堂前 聡 旭川中央金融支所長兼旭川中央金融支所貯金共済課貯金課長(旭川中央金融支所長)

■退職
8/31 審査役 朝倉 久喜 管理部付審査役
8/31 推進役 生田 幸子 旭川中央金融支所貯金共済課貯金課長
お世話になりました

JAあさひかわ役員研修会を実施

8月2日(木)、JAあさひかわ役員研修会を3泊4日の日程で実施した。研修では、JA北信州みゆき、JA安房やJAきみつ農産直売所を訪問し、今後、当JAで取り組む農業・農協中期3ヵ年計画の参考となる有意義な研修であった。



▲JA安房とJA全農ちばとの研修



▲JAきみつ農産直売所を訪問

第7回理事会

平成17年6月30日(木)

協議事項

- 1 平成17年度米売渡契約及び出荷契約金の支払について
- 2 JAあさひかわ「クリーン米生産と全量集荷をめざす」生産者総決起集会について

第8回理事会

平成17年7月27日(水)

協議事項

- 1 永山駅前通り再開発について
- 2 外部出資の処分について
- 3 出資の減口について
- 4 規程類の制定及び一部改正について
- 5 大口貸付について
- 6 平成17年度農地の時価評価額について
- 7 固定資産の取得について

報告事項

- 1 平成17年6月末事業実績（子会社含む）について
- 2 地区内営農状況について
- 3 平成16年度北海道米（うるち）啓蒙普及事業報告について
- 4 平成17年度米売渡契約仮渡金変更にもなう対応等について
- 5 精米日の変更について
- 6 内部監査の実施報告及び結果と処理顚末について
- 7 有価証券の取得について
- 8 系統外預金と信託状況について

謹んで故人のご冥福をお祈り申し上げます。

6/10	水島 繁太郎さん	北野地区5区
6/13	三田 利夫さん	旭正地区共栄2
6/27	本間 枝美子さん	永山地区その他
7/1	石倉 松二さん	旭正地区旭正3
7/17	佐野 忠孝さん	北野地区聖和
7/25	狩野 義郎さん	神居地区芳野1
7/31	田中 耕さん	永山地区11区 元役員
(ともに正組合員)		



概要

(平成17年6月末実績)		
組合員数	正組合員	2,758名
	准組合員	24,305名
	合 計	27,063名
出 資 金 残 高	1,909百万円	
販 売 取 扱 高	612百万円	
生産資材供給高	818百万円	
給油所供給高	769百万円	
生活供給高	194百万円	
貯 金 残 高	92,693百万円	
融 資 残 高	21,919百万円	
長期共済保有高	2,402億円	

旭正トビックス



▲広大な丘の大地を大満喫した。

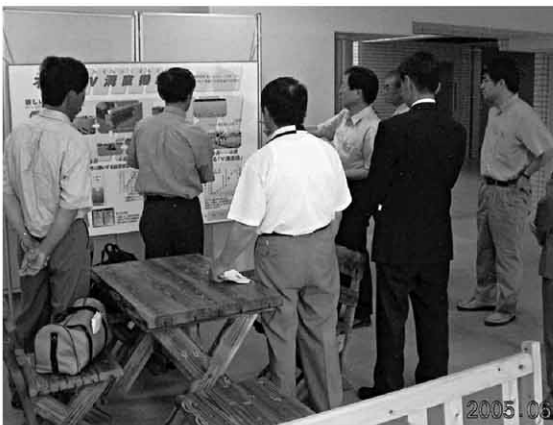
旭正支所女性部は、年間行事の一環となつて役員研修会を、7月15日(金)に実施した。当日は幸い好天に恵まれ、研修会には恰好の日となった。この日の研修会は、まず旭正基幹支所からスタートし上富良野の「かんのファーム」へ向かい、美しい季節の花々を視察した。次に、「トリックアート美術館」でたまし絵という巧妙な技法によって描かれた絵を鑑賞した。午後からは「ふらのラテール」で昼食をとり、「万華の湯」の温泉で日頃の疲れを癒した。その後は、「フーランドかみふらの」、今年も非常に有意義な1日を過ごした。

「ゼブラの丘」と雄大な景色を存分に満喫して、事故も無く無事に楽しい研修会を終えた。このルートは、全国的に人気の高い美しい田園風景が広がっている。色彩豊かに広がる波状丘陵農地は、また、多くのおいしい農産物の産地でもある。

富良野、美瑛の丘の大地を視察
旭正支所女性部が役員研修会

旭正支所稲作協議会では6月20日(月)からの3日間、道外視察研修を実施した。1日目は、ホクレン名古屋支店を視察、北海道米の販売状況の説明を受けた。16年産米については、15年産の繰り越しが少なかったことに加え、業務用実需の新規獲得、および食味向上のPR強化により販売は好調に推移しているとのことであった。また、「ななつぼし」の評価が高く、「あやひめ」を10%ブレンドした「げんきぼし」を中部エリアで拡販推進中とのことであった。2日目は、愛知県農業総合試験場で不耕起栽培、なかで

も同試験場で開発された不耕起V溝直播栽培についての説明を受けた。今後、県内では高齢化やコスト低減等を考え合わせるなど不耕起V溝直播栽培が増加していくであろうとの話であった。3日目は、有意義な研修を終え羽田空港より帰旭、無事研修を終えた。



▲道外視察研修の研修風景

道外視察研修を実施

旭正支所稲作協議会開かれる